



未来へつなぐ

Vol.
172

文／本間 吾里砂



線路内に侵入したエゾシカ

エゾシカとの衝突事故により、花咲線・釧網線の輸送障害が深刻化
二〇二四年三月のダイヤ改正を機に、一部列車の減速運転を本年実施へ
増え続ける衝突事故
過去最大を記録中

ここ数年、北海道ではクマやエゾシカなどの野生動物が市街地に出没し、人間の生活圏に大きな影響を及ぼしています。JR北海道でも、とくに鹿との衝突による列車の運休や遅延など、輸送障害が深刻で、二〇二〇年度の二四三事件を皮切りに、毎年、過去最大の衝突件数を記録。二八八二件となった二〇二二年度は、石北線で大きく件数を伸ばす結果となりました。

観光で北海道を訪れるお客

さまにとっては、エゾシカが「列車から見える」「列車の前を走る」といった現象は物珍しい体験として受け止められている一方で、JR北海道にとつては悩ましい問題となっていることも事実です。列車と鹿が衝突し死がいが線路付近にある場合の除去方法は、乗務員が鹿を列車運行に支障のない場所へ除去し、問題がないと判断した後、列車の運行を再開。衝突した鹿は、関係箇所から連絡を受けた保線係員が現地へ向かい、回収する段取りとなっています。一方、衝突後、車両の床下に鹿を巻き込んでしまい、乗務員だけで対処するのが難しい場合は、保線係員などの対応手配を行うため、除去作業に多くの時間を費やすことになりました。たとえスムーズに進んだとしても発生した時間が夜間帯、衝突した場所が道路か



鹿侵入防止柵

ら離れたところや山間部であれば、保線係員などが到着するまで時間がかかるのは必ず。運転再開までお客さまに列車内で長時間お待ちいただくこととなります。しかも、天然記念物に指定されているオジロワシなどが死がいに群がった際、別の列車に接触してケガをするなどの二次災害も報告されており、早急な対策が求められています。

こうした事態に対し、環境省釧路湿原野生生物保護センター内にある猛禽類医学研究所と情報交換をしながら効果的な方策を検討しています。

鹿侵入防止柵設置や
減速運転など対策実施中

JR北海道では、これまでも鹿侵入防止柵の設置をはじめ、沿線の木の伐採による運転士の視認性確保、衝突する前に運転士が鹿を発見対処できるよう列車ダイヤの余裕時分を付加するなど、さまざまな取り組みを行ってあります。直近では二〇二二年三月五日から二〇二三年三月三日まで、花咲線と釧網線の一部の列車で減速運転を実施。それ以前の期間と比較した結果、減速区間では衝突事故が二割ほど減少しました。これを受け、二〇二四年三月のダイヤ改正から両線区の減速運転を本年へ。これにより、季節を問わず増え続ける鹿との衝突事故をできるだけ回避する取り組みを行っています。